熊本地震の報告

熊本県　肢体不自由特別支援学校長会

熊本地震の概要（熊本県HP資料より）

震度7を観測

発生時刻	令和8年7月28日16時27分
マグニチュード	7.1（暫定値）
発生場所	熊本県熊本地方　深さ16km
震度	宇城市（うきし）・氷川町（ひかわちょう）で震度7を観測

【人的被害】計419名（死 亡）38名（重症者）50名（中等症者）97名（軽症者）73名（分類未確定）161名
【住家被害】計80，647棟（全 壊）2，571棟（大規模半壊）970棟（半壊）7，716棟（一部破損）65，932棟（分類未確定）3，458棟
【避難所・避難者】避難所開設数：21か所（7市町）、避難者数：1，085名（7市町）

熊本県
市町村
区画図



3回目の震度7

熊本県の
肢体不自由特別支援学校（5校）

- ○ 熊本かがやきの森支援学校（熊本市横手） 震度6弱
- ○ 松橋東支援学校（宇城市） 震度7
- ○ 松橋支援学校（宇城市） 震度7
- ○ 芦北支援学校（芦北郡芦北町） 震度6弱
- ○ 苓北支援学校（天草郡苓北町） 震度5弱

今回は、特に被害の大きかった

松橋支援学校と松橋東支援学校の

状況を中心に報告します

■　松橋支援学校の概要

校訓　「じょうぶで　明るく　粘り強く」



（１）沿革

昭和４１年に熊本県立養護学校として開校し、昨年度創立６０周年を迎えた。

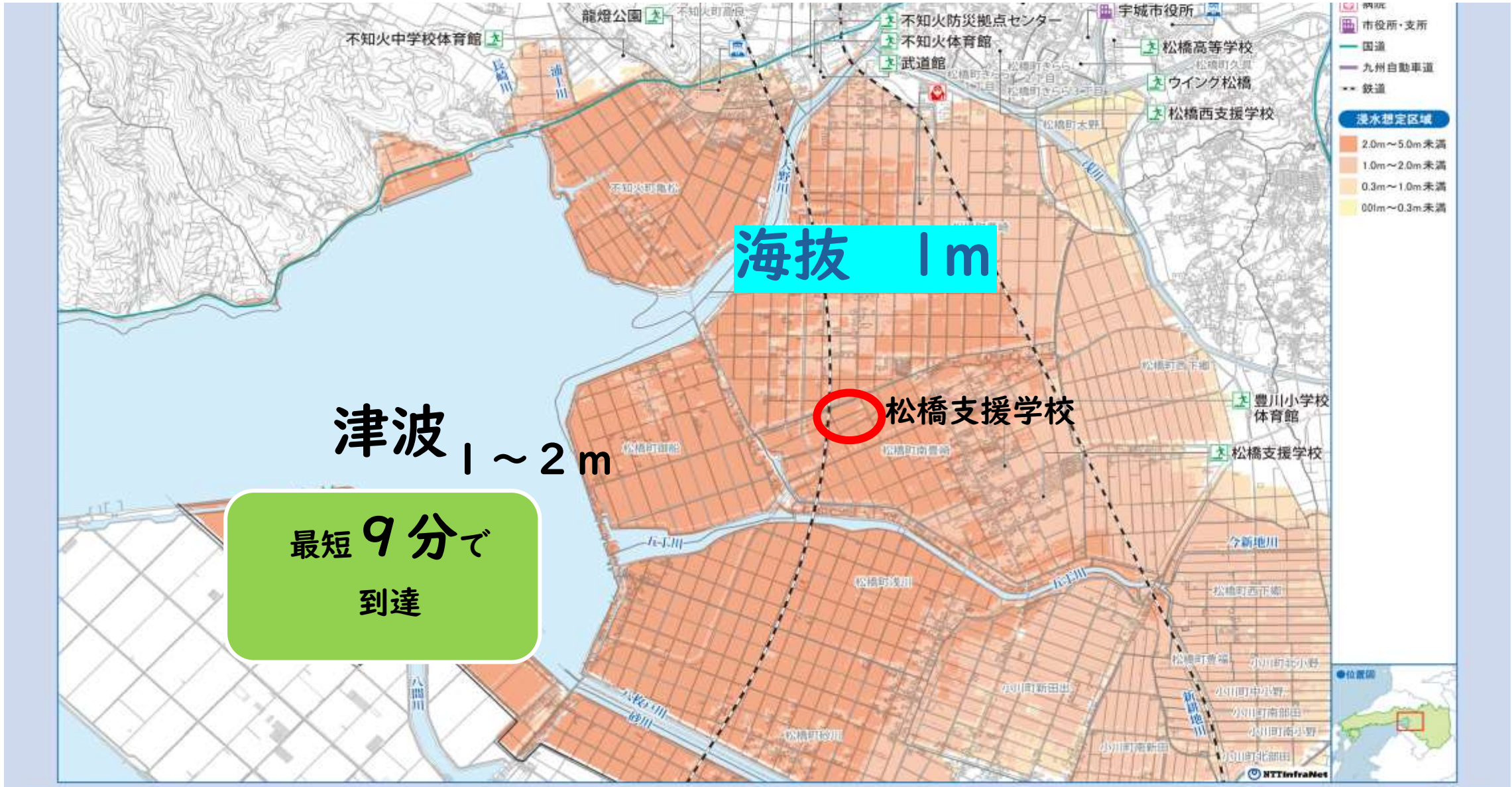


（２）児童生徒数（３７人）

学部	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
小学部	4	5	1	2	0	2	14
中学部	2	3	3				8
高等部	5	6	4				15

※寄宿舎生　男子９人　女子３人　計１２人

宇城市ハザードマップ　津波浸水想定区域



宇城市ハザードマップ　**洪水浸水想定区域**

令和７年８月　大雨による被害







■　学校の被災状況について

職員室







各教室　被災状況





図書室　被災状況





体育館　被災状況





被災状況





被災状況





厨房・食堂・図書館棟
→　立ち入り禁止

被災状況





■　給食再開に向けて

8月20日　教育委員会（体育保健課）→家庭科室調査

8月25日　文部科学省から条件付きで許可

8月28日　保護者説明会
→弁当持参のお願い
→11月目標　安心安全を前提に、給食再開

〇家庭科室の木製棚・不要物撤去・掃除
〇電源・電圧の工事
〇厨房より冷蔵庫等・道具の取り出し設置
〇給食の試食作り、兼、工程確認
→10月5日　給食再開

弁当の様子

写真：ホームページでは、個人情報のため削除



給食再開の様子





写真：ホームページでは、
個人情報のため削除

栄養教諭より

１１月より、
お肉・魚料理を
増やしていきたい。

■　寄宿舎について

8月17日　寄宿舎生(12名)保護者会
(風呂×　食事×　災害時避難場所(体育館)×)
→当面の間　再開ができない

通学が可能な場合
→通学をお願い

写真：ホームページでは、
個人情報のため削除

8月17日　寄宿舎生(12名)保護者会

(風呂×　食事×　災害時避難場所(体育館)×)

→当面の間　再開ができない

○夜の勤務体制職員5名
寄宿舎生を5名程度とし
マンツーマン対応
豊川小学校への避難可能
になるのでは！

○風呂修理
完了

○給食再開
○朝・昼
保護者負担

10月5日　寄宿舎再開（通学が厳しい6名対象）

・再入舎いただく保護者への説明(朝夕食事の工夫)
・避難場所(①豊川小学校　②校長官舎　③校内避難台)

■　地震・津波対応に向けて

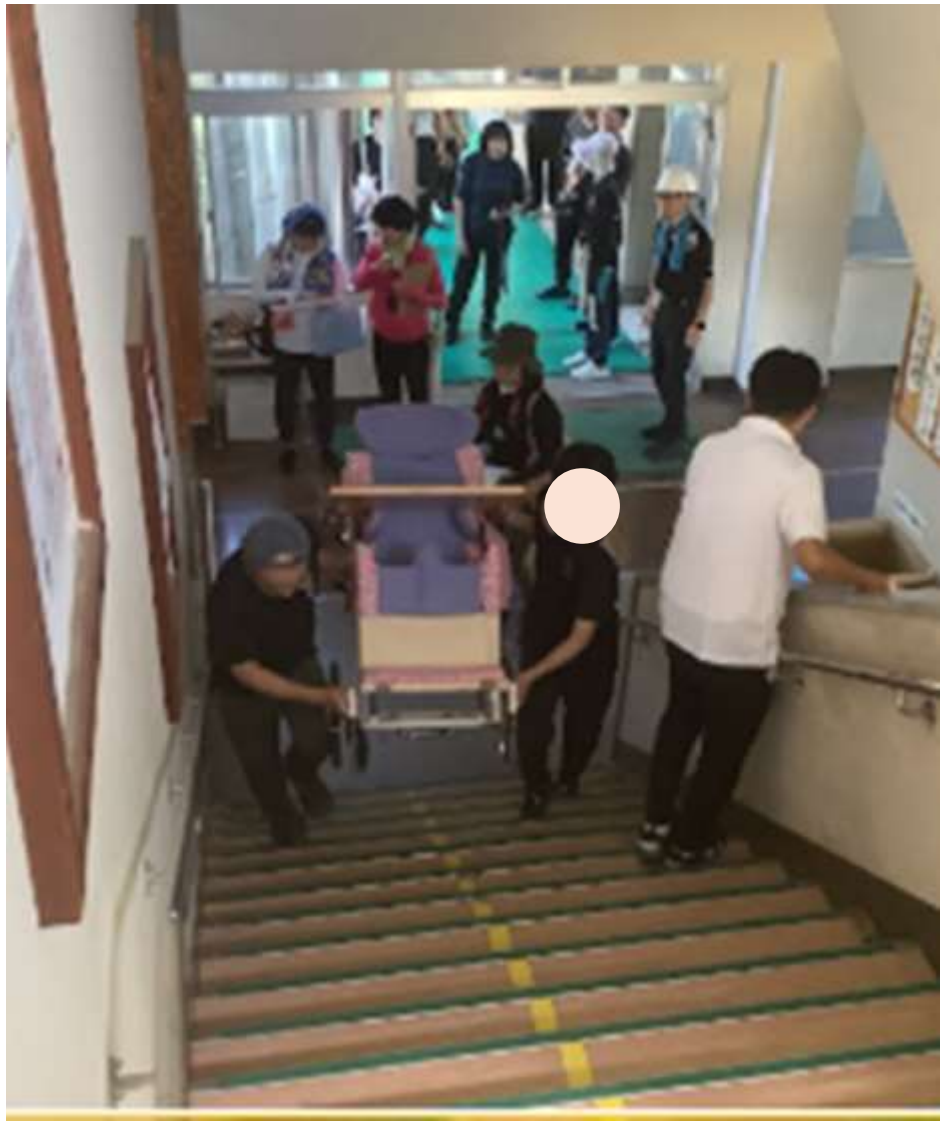
8月25日　全職員で地震・津波避難訓練



豊川小学校（約500m）







松橋東支援学校の概要

校訓：明るく　素直で　ねばり強い　子ども

(1)沿革

昭和30年　熊本県松橋療護園開設
（現　熊本県こども総合療育センター）
昭和47年　開校　熊本県立松橋東養護学校
昭和54年　養護学校義務制実施
平成24年　熊本県立松橋東支援学校に改名
平成30年　※病弱訪問教育を開始
令和　4年　創立50周年記念式典挙行







熊本県の県央
宇城市（福祉の町）

福祉の町の象徴
「希望の里」に立地
周囲には福祉関連施設

【設置学部及び幼児児童生徒数】 【合計】 50人 （令和8年11月1日現在）

肢体不自由教育

・幼稚部（　3人 ）

・小学部（ 13人 ）

・中学部（　6人 ）

病弱訪問教育

・小学部（ 19人 ）

・中学部（　9人 ）

写真：ホームページでは、
個人情報のため削除

■　学校の被災状況について

教室



被災状況

教室



被災状況

特別教室



被災状況

特別教室





被災状況

特別教室



被災状況

廊下



被災状況

廊下



被災状況

廊下



被災状況

廊下



被災状況

職員室



被災状況

渡り廊下と土間



被災状況

渡り廊下と土間





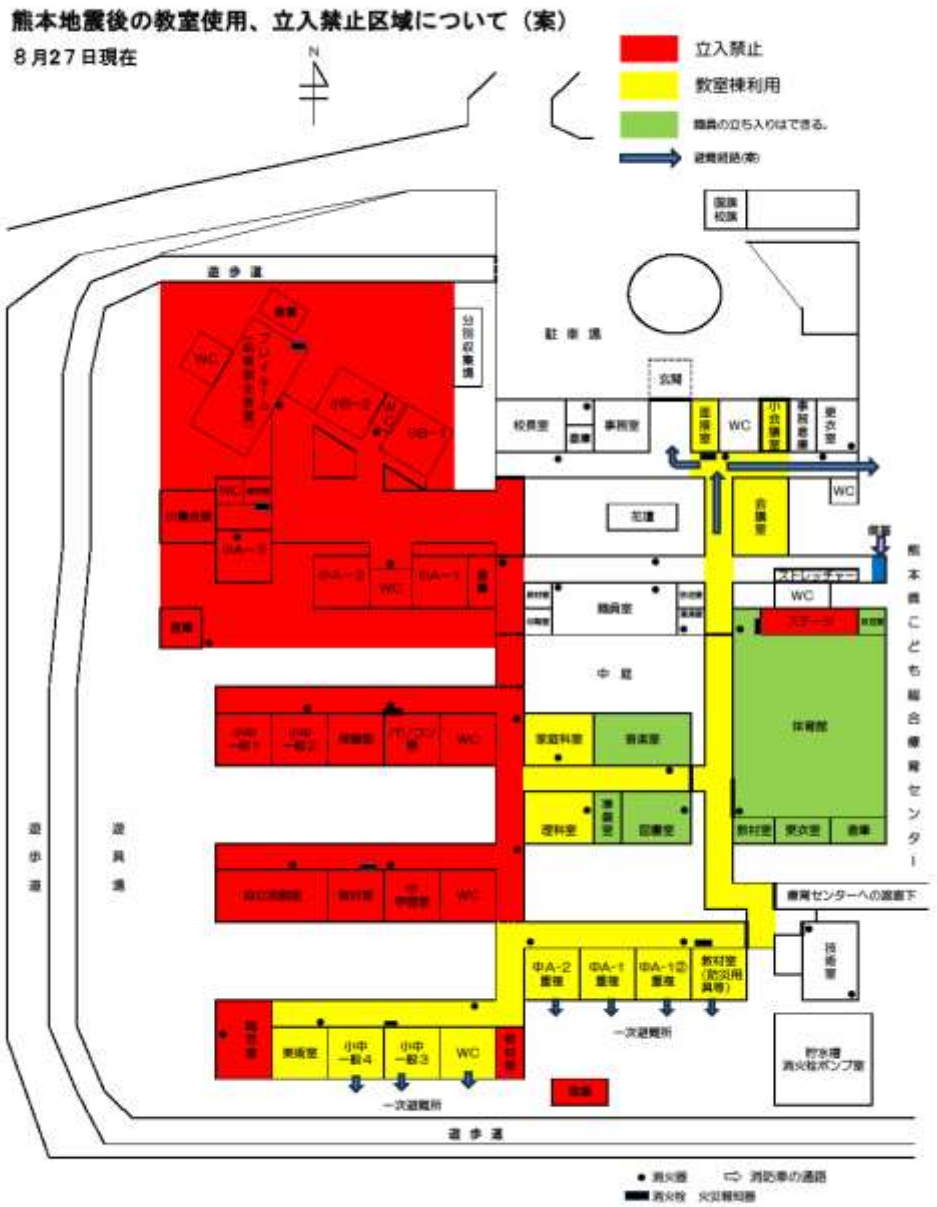
被災状況

渡り廊下と土間





地震後の校内施設の使用状況



〇朱塗り部分は立ち入り禁止
- 幼稚部棟
- 全小学部重複学級
- 保健室、パソコン室
  自立活動室、美術室
- 複数のUDトイレ　　、他

〇緑色部分は修理や設備入れ替え　等、
確認後に使用可能
（１１月１日現在使用不可）

〇黄色部分は使用可能で教室を再配置済み
- 会議室→小学部教室
- 事務倉庫→トイレ
- 中美術室→小学部教室、他

〇幼稚部は隣接の療育センターの一部を
仮教室として借用中

■　教育の復興に向けて

発災当日（７月２８日）

０　学校（教頭、事務長）との情報交換開始　※校長は出張中
　　教育委員会と県立校間の情報交換開始

１　幼児児童生徒、および職員（在校職員、在宅職員）の安否確認

２　校内の被災状況の確認（関係医療機関の被災等も情報収集）

３　宇城３校の避難所開設可否の相談（松橋高、松橋西支、松橋東支）

４　「希望の里　防災対策委員会」の設置と連絡

５　出勤していた職員全員の帰宅確認（２２：４０）

発災翌日（７月２９日）

０　職員は自宅待機　（管理職、防災担当、事務職員のみ出勤）
　　通勤時の大渋滞　（高速道路、JR線は停止）
　　ガソリンスタンド渋滞も発生、校内は電気・水不通、余震多数

１　情報ボード設置（校内LAN等の不通）情報共有

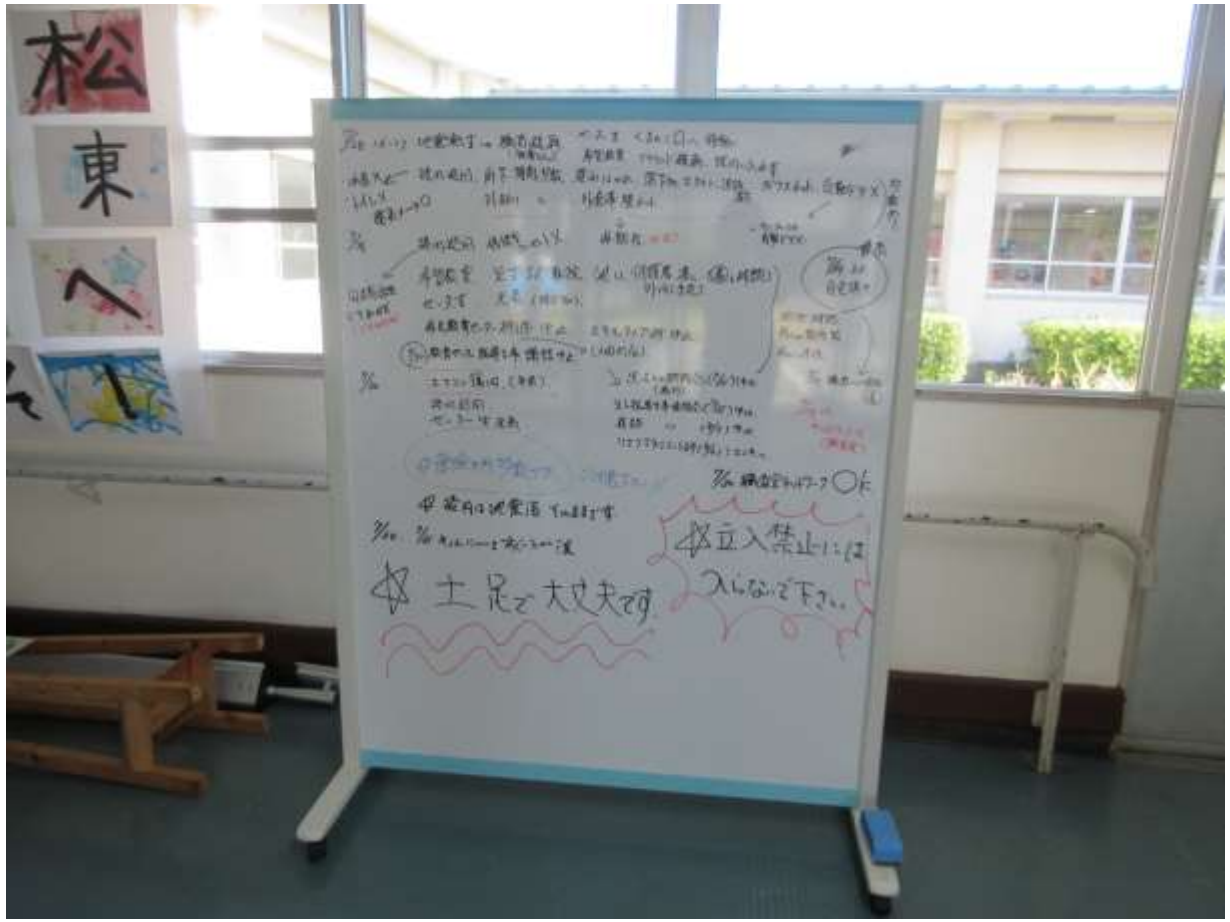
２　校内の被災状況の再確認

３　隣接の療育センターにいる幼児児童生徒の安否確認訪問、
　他院は電話

４　熊本県施設課訪問「現状、９月からの授業再開は困難」等

５　校内打ち合わせで、今後のスケジュールづくり

情報共有



水の確保



発災３日目（７月３０日）以降

３０日　文科省、県施設課、県特別支援教育課、等の現地視察

３１日　職員朝会で情報を共有、全員または学部単位での片付け開始
※被災職員への配慮（ほぼ間接被災）
※※被災箇所、被災物品、再購入等の報告依頼が多数事務部へ

以降、関係諸機関と密に連絡を取り合い、授業再開及び施設設備の復興に取り組んでいます。少しずつ少しずつ進んでいます。

校外：施設課、営繕課、特支課、各医療機関、歴代校長、近隣校校長

校内：総務部（教育の復興）事務部（施設設備の復興）防災（安全）

熊本県立松橋東支援学校
令和８年熊本地震復興組織図

学校復興推進本部

- 校長（全体統括・行政対応）
- 教頭（統括補佐・校内調整・関係機関対応）
- 事務長（施設設備復興統括・行政対応）

安全安心確保班

- 防災主任
- 健康安全部
- 総務部
- 生活支援部

・防災マニュアル等の見直し
・新経路の避難訓練実施計画
・緊急連絡体制の再構築
　○校内（職員間、保護者）
　○関係機関
　○その他の機関
・幼児児童生徒、教職員の心のケア

学習活動再開班

- 総務部
- 幼稚部、小学部、中学部
- 病弱訪問教育部
- 情報教育部
- 情報教育部
- 研修部

・教室配置の変更案作成、変更
・教室設備の確認（配置、安全性）
・２学期以降の学習計画策定
　（年間計画の変更等）
・教材や機器等の回収、移動、
　動作確認、代替配置等

施設・設備復旧班

- 事務部
- 総務部
- 健康安全部

・被災マップの作成と共有
・被災校舎等の安全確認
・施設設備の復旧推進
・県教委、業者、その他やり取り
・教室配置変更への対応
　購入や廃棄、等
・その他

※役割を明確に短時間で、組織的に復興を！

授業再開

←登校の様子（９月１日）

↓分散で始業式（幼稚部）

写真：ホームページでは、
個人情報のため削除

地震避難訓練



写真：ホームページでは、
個人情報のため削除

８月２６日職員避難訓練
９月１日　避難経路確認
９月８日　地震避難訓練

■　子ども福祉避難所について　（熊本かがやきの森支援学校）

＜本県の取組＞

平成２８年熊本地震の教訓から、熊本県では所在地域の自治体と協定を結び「子ども福祉避難所」を開設することとしている。

熊本市（熊本かがやきの森支援学校）の場合　＜防災対策備蓄台帳＞

◎医療的ケア：吸引カテーテール、人工鼻、滅菌ガーゼ、プラスティック手袋、シリンジ　等

◎熊本市から：トイレ＆テント、ベッド、間仕切り、発電機、毛布、マット　等

今回の地震では･･･
熊本かがやきの森支援学校にて、熊本市を中心とする「自主避難者」の受け入れをしました。







■　子ども福祉避難所に係る今後の対応

課題となったこと	対応
○　自治体の支援は弁当などであり、重度心身障がいの児童生徒は、自分で用意しなければならない。	○　熊本市に要請し、備蓄してもらえることになった。
○　屋内避難を想定しているが、イオンモールの事例を踏まえ、一時的な屋外避難を想定する必要がある。	○　熊本市と外用テントの配備を検討中。
○　福祉避難所であるが、災害状況によっては地域住民が押し寄せる場合がある。	○　熊本市とアナウンス、誘導の方法を調整中。

全国の学校や関係機関の皆様
たくさんの励ましの言葉や温かい応援を
いただきありがとうございます

○　皆様の支援は、私たちの大きな心の支えになっております。

○　私たちは「明るく　ねばり強く」復興・教育の再建に取り組みます。

○　現状をありのままに受け止め、前を向いて、笑顔で、こつこつと学び、
　歩み続けます。

どうぞこれからも見守っていてください。